

# 大阪・関西万博の環境影響評価に係る「市長意見」に基づく ロードマップ（鳥類の生息・生育環境への配慮）等についての 環境NGOの評価について

大阪自然環境保全協会

<協働団体>

日本自然保護協会

WWFジャパン

日本野鳥の会

日本野鳥の会大阪支部



# 2025年日本国際博覧会環境影響評価準備書に関する市長意見 (抜粋)

2025年日本国際博覧会においては、SDGs達成、さらにSDGs + beyondへの飛躍の機会となることをめざし、脱炭素社会の構築や循環型社会の形成、自然との共生などを掲げており、世界の潮流と方向性を同じくするものである。

これらの実現に向けては、世界の英知を結集した先導的技術とともに、来場者一人ひとりの行動変容を促すことによる新たなライフスタイルへの変革、さらに生物多様性の保全が不可欠であり、これらを具体化することにより、新たな社会のあるべき姿を国内外に向けて強く発信することが求められる。

このような視点から、本事業について、事業者が考慮すべき事項を次のとおり取りまとめた。

## 記

### 〔動物・生態系〕

夢洲では多様な鳥類が確認されていることから、専門家等の意見を聴取しながら、工事着手までにこれら鳥類の生息・生育環境に配慮した整備内容やスケジュール等のロードマップを作成し、湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること。

### 〔植物〕

ハマボウ、ホソバノハマアカザ、ウラギクについて、早急に現地の状況を確認した上で、本事業の工事により生息環境への影響が想定される場合は、関係機関と協議の上、環境保全対策を実施すること。



# 博覧会協会と環境NGOと対話（共同検討）の場

## 共同検討参加団体

（日本自然保護協会、日本野鳥の会、WWFジャパン、日本野鳥の会大阪支部、大阪自然環境保全協会）

## 大阪・関西万博

### 【テーマ】

いのち輝く未来社会のデザイン  
Designing Future Society for Our Lives

### 【開催期間】

2025年4月13日～10月13日

- 国内外の市民団体が保全を要請
- 鳥類の保全対策の共同検討に向け協議開始（2023. 9）
- 万博期間中のテーマウィーク「地球の未来と生物多様性」を予定

大阪南港野鳥園

夢洲（ゆめしま）

大阪市・大阪港港湾地域航空写真より

# NGOとの鳥類の保全施策に関する共同検討

- 第1回 2023年9月28日（議事録公開）
- 第2回 2024年2月1日（議事録公開）
- 第3回 2024年9月5日（議事録公開）
- 第4回 **2024年12月5日（議事録公開なし）**

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会は、大阪・関西万博の会場予定地にシギ・チドリ類やコアジサシなど、鳥類の重要な種が生息していることから、博覧会協会が行った環境影響評価においても、可能な限り鳥類の生息・生育環境の配慮に努めることを記載しています。自然保護団体等NGOからは、鳥類等の重要な種の保全と配慮等について、NGOが各地で行ってきた活動の知見を活かせるとの考えから、NGOを交えた検討の場を作るよう要望を受けています。また、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」及びテーマの一つが「地球の未来と生物多様性」とされているテーマウィークを実現していく上では、NGOとの協働が不可欠であると考えています。このたび、NGOとの協働及びステークホルダー・エンゲージメントの観点から、NGOのご要望を受けて、博覧会協会が実施する鳥類の生息・生育環境に関する配慮事項をテーマとした共同検討を開催しました。

出典：EXPO 2025 大阪・関西万博公式Webサイト

## ロードマップ等の公開

- 2023.12 「市長意見に対する事業者の見解及び履行状況」
- 2024.04 「コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮について」
- 2024.12.13 「水辺等を利用する鳥類への配慮について」**
- 2024.12.13 「緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について」**



## 「市長意見」に基づくロードマップ（鳥類の生息・生育環境への配慮）等 についての環境NGOの評価について

- ・ 私たち環境保護団体は、「博覧会協会が実施する鳥類の生息・生育環境に関する配慮事項をテーマとした共同検討」の場（2023年9月から計4回実施）で、博覧会協会に対し、保全策を提案し、意見交換を行ってきました。
- ・ 博覧会協会は、その検討結果を12月5日の第4回の共同検討の場で説明し、12月13日に公表しました。その内容は、私たちの提案は取り入れられず、環境アセスメントに関する「大阪市長意見」でも求められている保全策としてもまったく不十分なものと言わざるを得ません。
- ・ 博覧会期間中に整備される「静けさの森」「つながりの海」や鳥類の生息に配慮する空間についても、万博閉幕後は、更地として大阪市に返還されるため、万博開催のレガシーは何も残らず、世界的にもとめられているネイチャーポジティブ（自然再興）と逆行するものとなっています。



# 環境影響評価書による夢洲の環境について



出典：「2025年日本国際博覧会 環境影響評価書」

緑のエリア：「大阪の生物多様性ホットスポット」



# 大阪の生物多様性ホットスポット・ガイドブックより



大阪の生物多様性ホットスポット  
- 多様な生き物たちに会える場所 -

## 8 南港野鳥園・夢洲



ホットスポットAランク 全体地図 ⑳

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類			
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類			
ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	長栄葉澤池	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川遡流部	河川砂礫地	岩礁性海岸	洞穴	代替緑地



夢洲



アクセス: 野鳥園臨港緑地 (もと大阪南港野鳥園) へはニュートラム南港ポートタウン線「トレードセンター前駅」から徒歩。車は阪神高速湾岸線や咲洲トンネルを利用。

地図は地理院地図、電子国土Web (<http://maps.gsi.go.jp/>) を元に大阪府立大学で作成



トウネン (植山雅仁 撮影)



ハイロチュウビ (植山雅仁 撮影)



アオアシシギ (植山雅仁 撮影)



野鳥園臨港緑地 (もと大阪南港野鳥園)



コアジサシ (植山雅仁 撮影)



アカアシシギ (植山雅仁 撮影)



ベニアジサシ (植山雅仁 撮影)



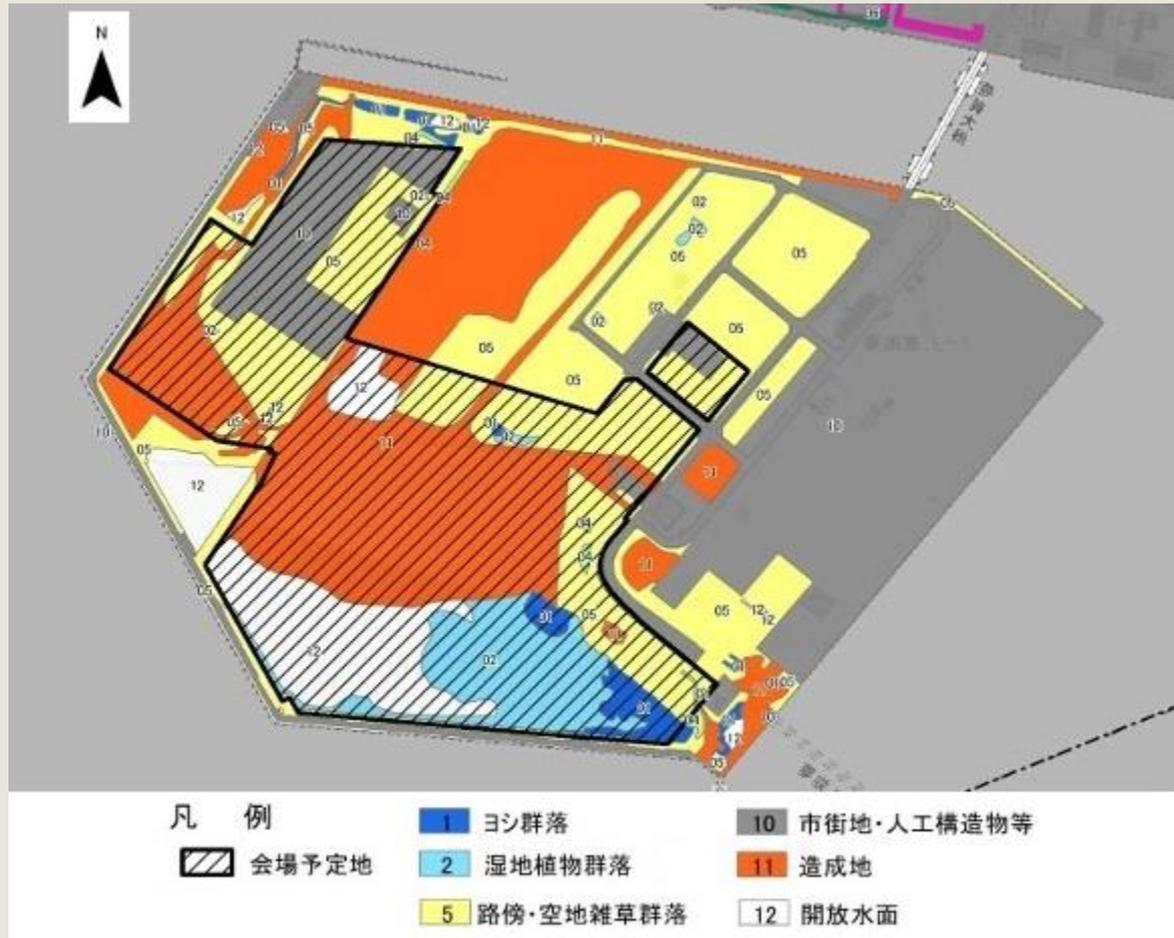
シロチドリ (植山雅仁 撮影)

出典: 大阪の生物多様性ホットスポット- 多様な生き物たちに会える場所

2016年1月発行



# 環境影響評価書による夢洲の環境



出典：「2025年日本国際博覧会 環境影響評価書」

「市長意見」による「湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること」

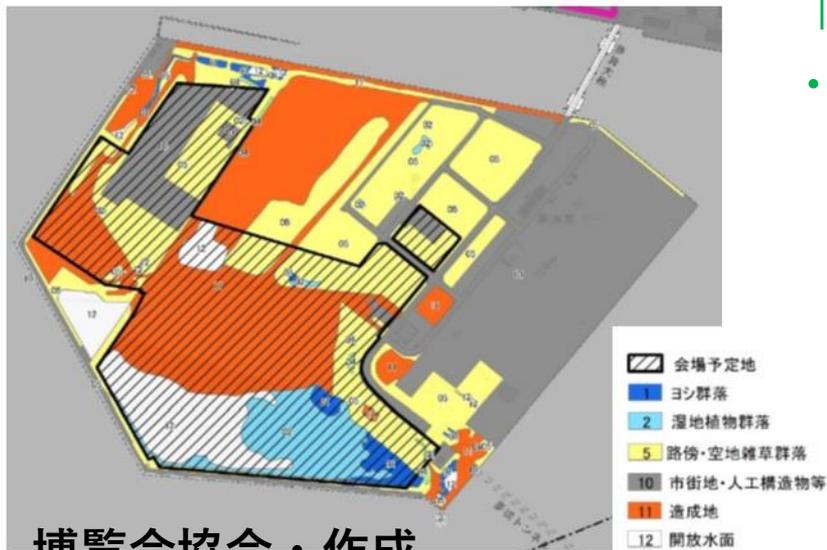
↓ ↓ ↓  
この様な環境がベース



# 夢洲の現況調査時点（2020年度）の環境

「緑地・樹木を利用する鳥類」  
・ 雑草群落：セッカ、ヒバリ

「裸地を利用する鳥類」  
・ 裸地：コアジサシ  
・ 路傍・空地雑草群落：コチドリ、シロチドリ



博覧会協会・作成

出典：「2025年日本国際博覧会 環境影響評価書」

「水辺を利用する鳥類」  
・ 開水面：カモ類  
・ 湿地：シギ・チドリ類  
・ ヨシ原：オオヨシキリ

「希少植物」  
・ 湿地植物群落：ウラギク、カワツルモ、他



大阪自然環境保全協会・作成



# 大阪自然環境保全協会「夢洲フォトアルバム」



2021年頃の  
夢洲の  
環境MAP

**いろいろな自然環境が あるからこそ  
多様な生きものたちが 生きていける  
=これらの風景はかつての夢洲です=**

★池 IR予定地(夢洲3区)にあった雨水のたまった池には、ホシハジロが、5000羽以上、滞在していた。この数はラムサール条約に登録できる3000羽をはるかに超える。このカモは比較的水深のある所を好む。



★池 コントラストの美しい大きなツクシガモは、毎年100羽以上飛来していた。これは本州最大の飛来数。比較的に深い池を好む。



★草地やヨシ原 草原やヨシ原は、小さな鳥たちにとっては、貴重な繁殖・子育ての場所だ。近年、そんな場所が少なくなり、今まで身近に当たり前にいた種が、絶滅に瀕している。

★湿地 「貴婦人」と呼ばれる美しいセイタカシギは、夢洲で複数つがいが繁殖している。2023年夏、工事が進み、狭くなった湿地でも繁殖。夢洲はセイタカシギにとって、日本で数か所の貴重な繁殖場所の一つになっている。



★水際 ヘラサギは、冬の夢洲の常連だった。よく2羽寄り添うようにして、湿地の中にたずんでいた。ある時、5羽で、悠々と飛び回っていた。ファミリーだろうか。



★水ぎわ 湿地には、たくさんのシギ・チドリが、群れをなして訪れる。ハマシギは、時にはなん百という単位の群れが、いくつも、飛び回っては場所を変えて舞い降り、また顔を探す。別の種のシギ・チドリがまざっていることも多い。



★砂利面 絶滅が危惧されるコアジサシ。広い川原や工事現場のような砂利面で集団繁殖する。工事開始前の夢洲には1000羽を超すコアジサシが来ていた。



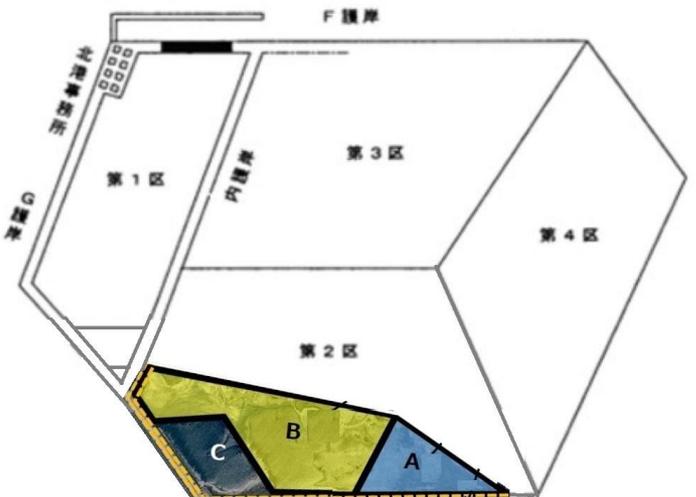
# 住民監査請求で不当とした大阪港湾局による地盤改良工事（万博工事前）



大阪・関西万博の会場配置計画図

出典：「2025年日本国際博覧会 環境影響評価書」

「つながりの海」 予定地されている場所の  
「地盤改良工事」が、右で示す様に、  
大阪港湾局により進められる



大阪港湾局による地盤改良工事エリア図

A、B：工事範囲

C：沈殿池

A：地盤改良後は盛土され陸地化  
B：地盤改良後は海水が張られ一様な水深  
C：沈殿池のため、地盤改良工事外



令和4年5月27日

## 住民監査請求（夢洲2区埋立工事）の結果について（抜粋）

本件市長意見は、本件各工事対象区域の夢洲の水辺等を、本件各工事着手前の状態で保全することを求めたものではなく、**本件各工事が実施された後で、多様な環境を保全、または創出することを求めたものであり、**今後の博覧会協会の取組に委ねられるべきものと解される。

本件各契約は、**本件市長意見の履行を不可能にするといったものであるとは認められず、本件各契約及びその経費の執行に違法不当な点は認められない。**

（棄却、結果は同年同月26日決定）

＜私たちの理解＞

大阪市は博覧会協会が「**市長意見**」を**確実に実行**する様に博覧会協会に対応しなければ、住民監査請求が**棄却された理由の不履行**に成ってしまう。



## 博覧会協会のロードマップ等についての環境NGOの評価・経緯

博覧会協会と環境NGO 5 団体との「鳥類の保全施策に関する共同検討」

第1回 2023年9月28日

第2回 2024年2月1日

第3回 2024年9月5日

第4回 2024年12月5日 2024.12公開のロードマップの事前説明



博覧会協会によるロードマップ等の公開

2023.12 「市長意見に対する事業者の見解及び履行状況」

2024.04 「コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮について」

2024.12.13 「水辺等を利用する鳥類への配慮について」

2024.12.13 「緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について」

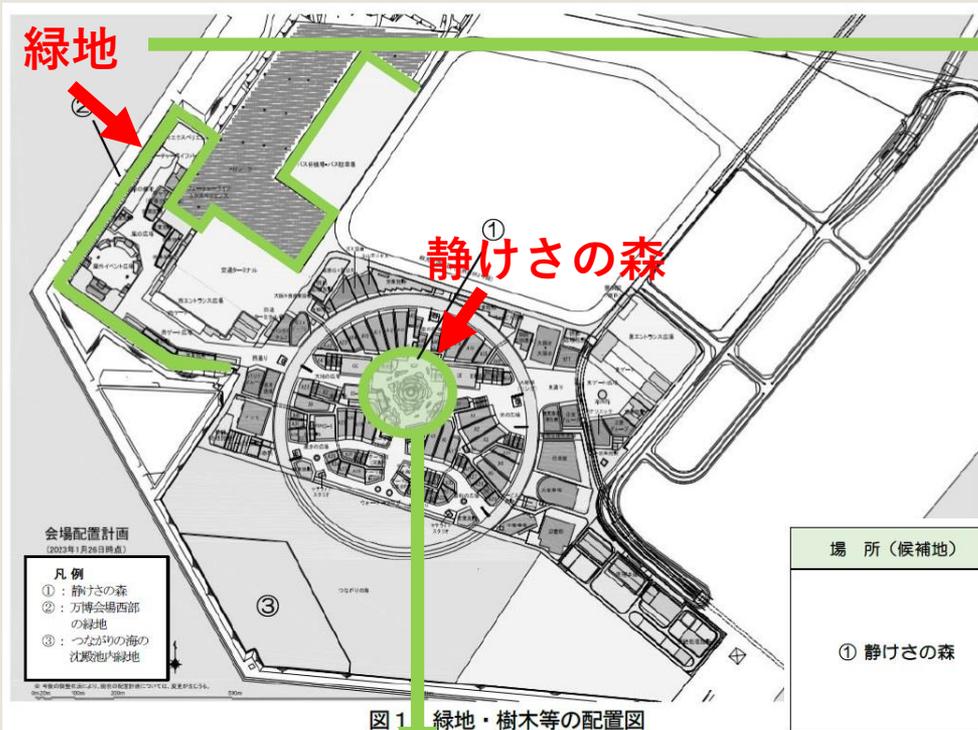


2024.12.13

私たちによる博覧会協会のロードマップ等への評価の公表



# 博覧会協会による「緑地・樹林を利用する鳥類への配慮」



出典：Googlマップ

万博後は残される  
(グリーンテラスの構想が不明)

場所(候補地)	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度
① 静けさの森	植栽工事等	鳥類が利用可能	移植工事等
② 万博会場西部の緑地(※1)	植栽工事等	大阪・関西万博開催	鳥類が利用可能
③ つなかりの海の沈殿池内緑地(※2)	鳥類が利用可能	海水の引き入れ期間	放流(※3)

※1 環境影響評価書では「グリーンワールド」と表記

※2 環境影響評価書では「WW沈殿池等」と表記

※3 原状復帰されたエリアより大阪市に返還

図2 緑地・樹木の整備スケジュール



万博後は残されない

出典：Googlマップ

出典：「緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について」

2024.4公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

# 博覧会協会による「裸地を利用する鳥類への配慮」



出典：Googlマップ

万博後は不明  
(グリーンテラスの構想が不明)

図1 裸地を利用する鳥類の利用可能な候補地 (2024～2026年度)



場所	2024 (令和6) 年度	2025 (令和7) 年度	2026 (令和8) 年度	
コアジサシ 要対応時期 (4月～8月中頃)	繁殖期	繁殖期	繁殖期	
会場予定地内 (会期終了後まで裸地等 の候補地なし)	建設工事等	大阪・関西万博 開催	解体工事等  (更地区域より利用検討)	
会場予定地外 の候補地① (裸地(砂れき地)等)	利用可能			埋立施設
	草刈り等		草刈り等	

図2 裸地を利用する鳥類が利用可能な候補地スケジュール (2024～2026年度)

出典：「コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮について」  
2024.12公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

# 博覧会協会による「水辺を利用する鳥類への配慮」

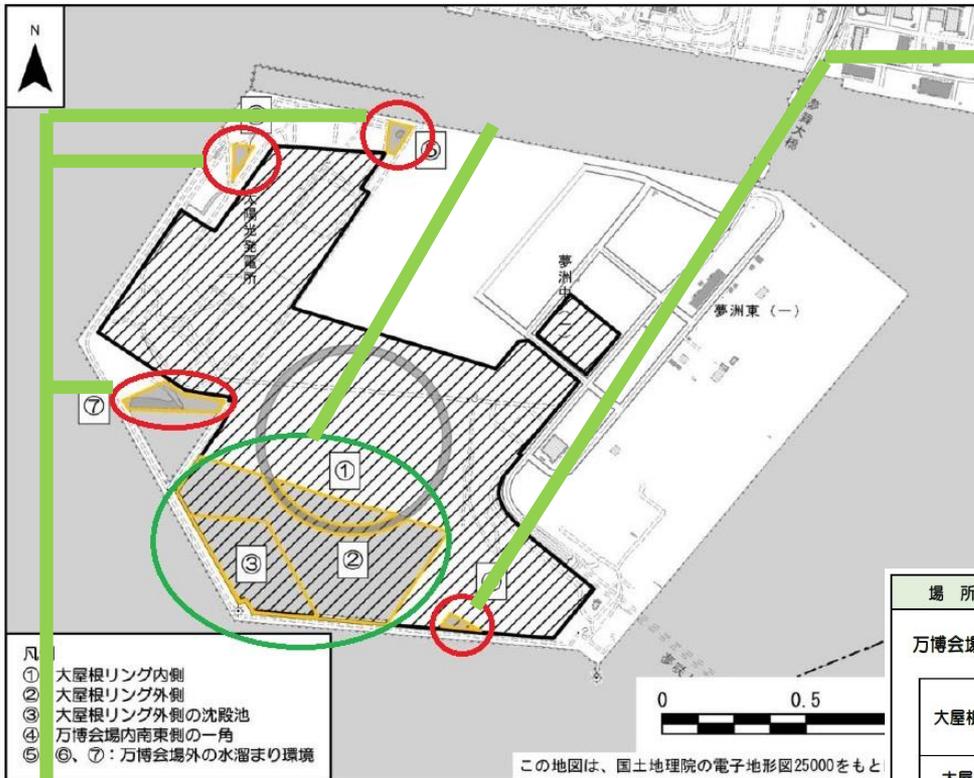


図1 水辺を好む鳥類の飛来可能な場所

- 凡 ① 大屋根リング内側
- ② 大屋根リング外側
- ③ 大屋根リング外側の沈殿池
- ④ 万博会場内南東側の一角
- ⑤ ⑥、⑦：万博会場外の水溜まり環境

万博後は残されない

開水面（カモ類）、湿地（シギ・チドリ）、ヨシ原（オオヨシキリ）の環境が保全・創出されるべきエリア。  
地盤改良で底質が無くなり、一様な水深のためカモ類の利用に留まる。

夢洲を特徴づける代表的な野鳥は、このような環境に生息しています。同じ★マークをごらんください。



出典：Googlマップ

万博後は不明  
(グリーンテラスの構想が不明)

赤い○のエリアはシギ・チドリの代替場所として設定されるがエリアが狭く利用が難しい。



出典：Googlマップ

場所(候補地)	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度
万博会場内の水辺		海水の引き入れ期間 放水	
大屋根リング内側 ①	建設工事等 イベント準備等	大阪・関西万博開催	解体工事等
大屋根リング外側「つながりの海」			
沈殿池以外 ②	建設工事等	水面として利用可能	解体工事等
沈殿池 ③	水辺(水面・水際部)として利用可能	水辺(水面)	
万博会場内南東側の一角 ④	整備工事等	水際部として利用可能	解体工事等
万博会場外水溜まり環境 ⑤、⑥、⑦		水辺(水面・水際部)として利用可能	

※①～④については、原状復帰されたエリアより大阪市に返還

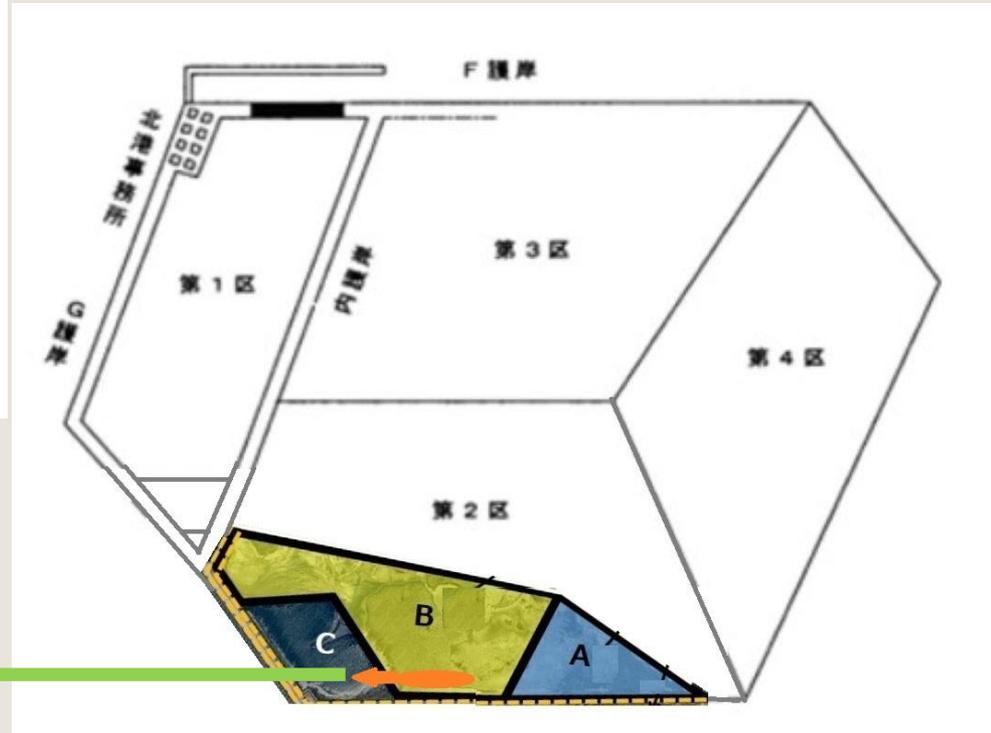
図2 水辺に関連するスケジュール

出典：「水辺(水面・水際部)を利用する鳥類への配慮について」  
2024.12公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

# 「希少植物」



出典：「2025年日本国際博覧会 環境影響評価書」

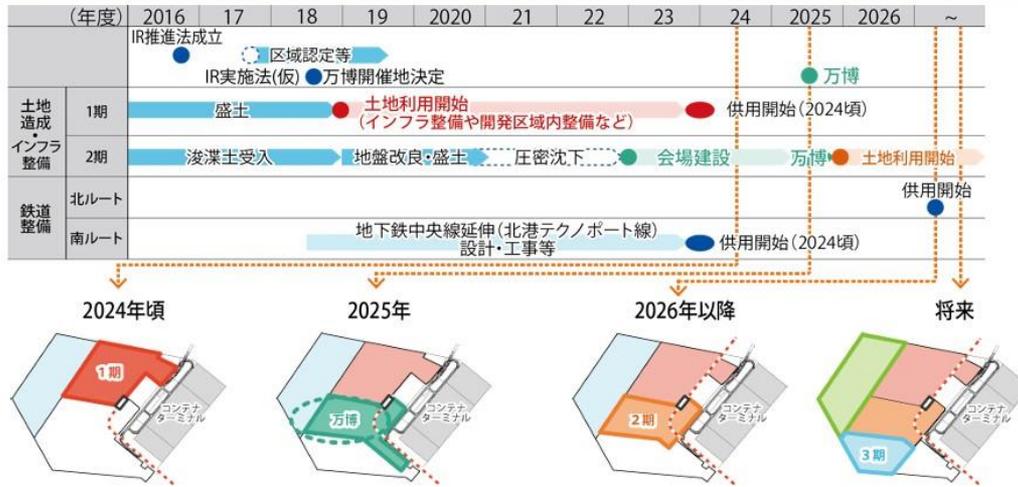


- ・ 希少植物の環境（湿地）は損なわれ、南港野鳥園、1区、Cに一旦移植され、その後に「浅場」に戻すとされていたが、具体的内容に至っていない。
- ・ なお、万博後の「つながりの海」の「浅場」は残らない。



# 万博と夢洲まちづくり構想

## 1. 夢洲まちづくりの想定スケジュール



(注) 土地造成の前提条件：1期は早期土地利用を想定、2期は万博が開催される場合を想定

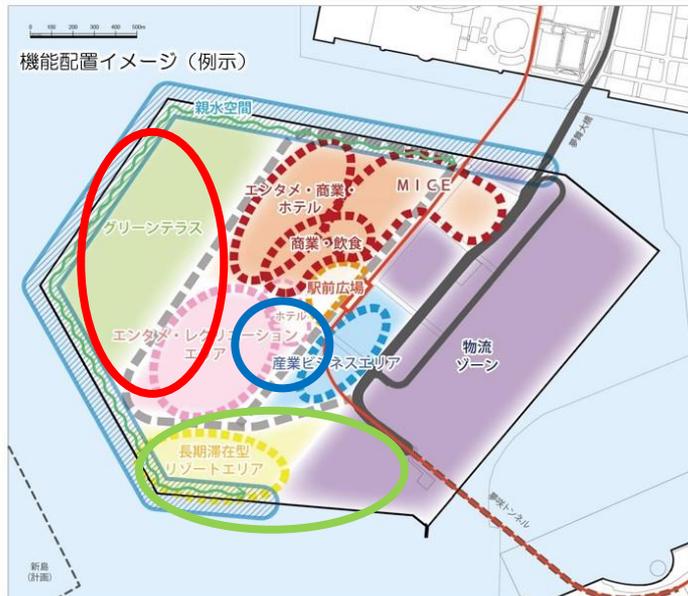


図 機能配置イメージ (例示)

## 水辺を利用する鳥類への配慮

・開水面 (カモ類)、湿地 (シギ・チドリ)、ヨシ原 (オオヨシキリ) の環境が保全・創出されるべきエリアは、長期滞在型リゾートエリアと計画され、残されない。

・シギ・チドリが利用するとした浅場の水溜りがグリーンテラスで残るとは言及されていない。

## 裸地、緑地・樹林を利用の鳥類への配慮

・静けさの森は残らず、エンタメ・リクレーションエリアと計画されている。

・グリーンテラスに緑地は残ると言うが、コアジサシの営巣候補地に言及はない。

## 希少植物への配慮

・移植避難されていた希少植物は、浅場に戻すとされていたが、残される浅場が言及されていない。



図 みどりのネットワーク形成

# 博覧会協会による市長意見履行状況の評価・まとめ



博覧会期間中に整備される「静けさの森」「つながりの海」や鳥類の生息に配慮する空間についても、万博閉幕後は、更地として大阪市に返還されるため、万博開催のレガシーは何も残らず、世界的にもとめられているネイチャーポジティブ（自然再興）と逆行するものとなっています。

出典：「2025年日本国際博覧会 環境影響評価書」



限られた条件の中で、私たちが提案した次の様な内容でしたが、実現されませんでした。

- ・つながりの海B区域の水底に泥・砂質を堆積させることで底生生物（甲殻類やゴカイなど）が発生する環境とする。
- ・つながりの海の水辺・汀線にむけて 傾斜地、潮間帯、移行帯など、エコトーンをつくる。
- ・C区域（沈殿池）に深みをつくり、お椀状の水辺と陸地の環境を整備する。
- ・大屋根リングの東側などに直線的な岸辺など植栽 可能と思われる場所がいくつか存在するので、こうした 場所をヨシの植栽地に充てる。
- ・会場予定地の西部の盛土法面等をチガヤ草地としてセッカ等の生息地を整備する。



出典：「夢洲まちづくり構想～新たな国際観光拠点の形成に向けて～」 2017.8.4夢洲まちづくり構想検討会



ご清聴ありがとうございました。

